



# 金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行責任者：般若陽子

編集責任者：般若慎一郎

5月中旬に福岡県八女市で全国伝建地区協議会総会に参加した時に、岐阜県白川村の和田さんという方に出会いました。白川郷の国重要文化財 和田家の当主であり「白川郷荻町集落の自然環境を守る会」会長をしている方です。その和田さんが5月26日に「西村幸夫まちなみ塾 i n 高岡」に来てくれ、金屋町の宗泉寺で再会しました。更に7月7日に「西村幸夫まちなみ塾 i n 金沢」へ出かけたならまた出会いました。彼のような地域づくりへの熱血漢がいてこそ、世界遺産白川郷が守られていると感じ、感服したところです。左上の写真は和田家です。

## 千保川サマークルーズ

8月11・12日に金屋緑地公園を拠点に、千保川サマークルーズが開催されました。

金屋町から内免まで400メートルほどの川下

りをメインに、前夜祭として恵比須塔の特別点灯と公園内コンサート、オープニングセレモニーに続いて龍谷高校生と富山大学生によるよさこい演舞、公園内でオープンカフェ、歴史めぐりとトワイライトクルーズ、千保川でまちコン、金屋町まち歩きガイド、Eボート・ロングクルーズ、千保川フォト・コンテスト写真展などなど、まことに盛り沢山の



かさと電球が取り付けられた恵比須塔

イベントでした。



緑地公園で、よさこい演舞

企画内容はとてもいいアイデアであり、高橋市長も連日参加されるなど、関係者と実行委員会スタッフの方々は大変苦勞されたと思いますが、いかんせん来客がとても少なかったように見受けられ、少々残念に感じました。計画から実行までの期間が短くて、事前のPRが行き届かなかったものと推測します。何しろ地元住民でさえ、このイベントのことをよく分かっていない人が多かったのが現実でした。

## 続・創造都市への挑戦～8月号のつづき

### なぜ今創造都市なのか

効率追求一辺倒の姿勢からは、例えばアイパッドのような画期的発明は生まれまいだろうし、リッツカールトンホテルのように高レベルな顧客サービスも生まれまいだろう。日本人は効率追求一辺倒の罫にはまって不振にあえいでいることに気づき、考え直すべきだという説がある。



新幸橋付近で、高橋市長・あみたん娘・利長くん

約100年前にフォードがベルトコンベアによる大量生産方式を発明して以来、生産効率を基本に大量生産＝大量消費システムで発展してきたが、今日の先進国では成熟した市場の変動に対応できず、大量消費の使い捨て文化が大量の廃棄物を生み出す結果、大量生産が環境破壊に直面して行き詰まりを見せている。これからの新時代には脱大量生産時代の生産システムとして、職人的工芸的な生産方式を現代のIT技術を応用して発展させることが重要となっている～だから創造都市なのだというのが「創造都市への挑戦」を書いた佐々木先生の主張です。

## 続・高岡芸術文化都市構想



東日本大震災の復興過程で、地元の祭りや伝統芸能の復活が被災者達の大きな心の支えになったことを多くの方が指摘しているが、佐々木先生も著書のはしがきに書いている。「物理的なインフラや地場産業の復旧・復興が欠かせないの言うまでも無いが、その他に人々の生きる力を支えあうコミュニティの再興が必要だ。そしてそのために文化芸術の力が大きな役割を演じる。わけても草の根の生活に結びついてきた祭りや獅子舞などの郷土の伝統芸能の持つ底力が今、被災地で再発見・再認識されている」。

金屋町であれば、御印祭であり弥栄節であり、鋳物作りの伝統文化です。そのような伝統文化の底力を町づくりの土台として活かそうというのが、高岡芸術文化都市構想です。

## スローライフ逸品

### フォーラム in 高岡

「高岡スローライフ逸品研究会」というのがあって、世の中の軸足は「速く・大きく・強く」「東京中心・経済優先」から「ゆっくり・ていねいに・安心安全で」「地方地域重視・人間本位」に変化しつつあることの観点から、新時代のものづくりが目指すものを「スローライフ逸品」と位置づけているものです。

10月13～14日に主題のフォーラムが開催されますが、13日16:30から「まちづくり分科会」が土蔵造りのまち資料館で開催され、パネル討論会に般若陽子さんも参加します。また19時から金屋町の宗泉寺で「夜なべ談義&交流会」が開催されます。

参加には事前申し込みが必要です。問い合わせは高岡商工会議所観光振興課へ（Tel23-5000）。

~~~~~

#### 鋳物資料館の企画展

#### 鋳物づくりの作業唄

## やがえふ

### の生い立ちと歴史



平成2年までやがえふ保存会の地方を務められた石田幸作さんがまとめた「やがえふ回想記」を基本に、飛見丈繁さん著「高岡鋳物史話」の記述や、写真、新聞記事などを追加して弥栄節の歴史をまとめてみました。たたら踏みの作業唄がどのようにして今日の民謡・弥栄節に成長してきたのかをこの機会に振り返っていただければと思います。

日程：10月6日（土）～11月4日（日）

場所：高岡市鋳物資料館第3展示室

入場無料